

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	20-050	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b> The global, regional, and national burden of oesophageal cancer and its attributable risk factors in 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017 食道癌の世界的、地域的、国家的負担と関連因子（1990-2017年）：世界疾病負荷研究2017の体系的分析		
<b>執筆者</b> GBD 2017 Oesophageal Cancer Collaborators.		
<b>掲載誌</b> Lancet Gastroenterol Hepatol. 2020 Jun;5(6):582-597. doi: 10.1016/S2468-1253(20)30007-8.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
食道癌、障害調整生命年、年齢標準発生率、危険因子		32246941
<b>要旨</b> <b>目的：</b> 食道癌は致死率が高く組織学的分類によりリスク因子が異なり、食道癌の最新の統計は政策立案に有用である。本分析では世界疾病負荷研究データを用い、国・地域、年齢、性別、社会人口統計指数（SDI）別の最新の各種推定値を明らかにすることを目的とした。 <b>方法：</b> 人口動態統計システムおよびサンプル、口頭剖検記録、癌登録データより1990年から2017年の食道癌の死亡率、発生率、および負荷を推定した。食道癌罹患者の死亡率（MIR）を推定し、リスク要因を含む死因統合モデル（CODEm）を作成した。MIRは死亡率と非致命的なモデリングに使用した。食道癌の主な危険因子に起因する障害調整生命年（DALY）の推定値も計算した。各食道癌の割合や特異的なリスク因子等も調査した。 <b>結果：</b> 2017年の食道癌新規症例473千件、死亡例436千件。年齢調整罹患率は5.9（人口10万対）、年齢調整死亡率は5.5（人口10万対）。DALYは978万年、年齢標準化DALYは120（人口10万対）。1990年と比べ、年齢調整罹患率は22.0%、死亡率は29.0%、DALYは33.4%減少した。しかし、新規症例は52.3%、死亡者数は40.0%、総DALYは27.4%増加した。国別では中国の発生件数、死亡件数、DALYが最も高く、年齢調整罹患率が高いのはマラウイとモンゴルであった。男性の年齢調整罹患率は2.7倍、死亡率は2.9倍、DALYは3.0倍高かった。DALYの大半は、危険因子（喫煙39.0%、飲酒33.8%、肥満19.5%、果物不足19.1%、嘔みタバコ7.5%）に起因していた。SDIや医療へのアクセスや質の指数が低く、室内空気汚染が高い国では食道扁平上皮癌の割合が高かった。 <b>結論：</b> 世界的にも食道癌は死亡率と疾病負荷が高く、一次予防の強化、高リスク地域でのスクリーニングが必要である。年齢調整発生率は地域差が大きいが要因は不明である。		